

主催：研究・イノベーション学会関西支部

共催：持続的エネルギー環境（SEE）分科会、日本 MOT 学会、
立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科、

第 12 回研究会(第 145 回)のご案内

今回は、年間研究テーマ「イノベーションと地域創生」のもと、「日本企業の生き残り・復活戦略」をサブテーマに、下記講演を企画しました。皆様方多数のご参加を期待します。

趣旨

今、電気自動車（EV）、ディスプレイ分野をはじめとする先端技術の分野は「ディスラプション（Disruption、非連続変化）」というべき大変革期の真っ只中にある。これまで日本の技術を支えてきた日本的経営が欧米の戦略的経営、中国のスピード経営に追い越され、崩壊の危機に立たされている。この危機を乗り越えるためには、大企業、中小企業が一体となった思い切った改革（よい指導者の出現、企業体質の変革、知恵の結集による戦略構築、企業独立と企業連携、戦略的スピード経営）が必要である。本研究会では百年に一度という危機に直面している自動車産業と、外国企業に買収され、みごと再建された家電企業について講演をしていただく。

三藤利雄氏 氏のご発表は、イノベーション・ダイナミクスにおいてこれまで提唱されてきた知見等に基づきながら、電気自動車（EV）を巡って今後予想される技術と市場の共進化的な発展過程を展望するとともに、トヨタ自動車を始めとする我が国自動車メーカーの将来について考察を行ったものである。中田行彦 氏のご発表は氏が 4 月 2 日に啓文社より出版された「シャープ再建」（持参の方には、著者のサインがいただけます）を基にご講演をしていただくもので、「関西を代表し、液晶の勝ち組であったシャープが、債務超過に落ち込み、台湾の鴻海の傘下となった。それから 2 年の時を経て、シャープは復活を遂げた。なぜ鴻海の傘下でシャープは復活できたのか？」を論じるものである。

講演会プログラム：

14:10～15:10 「EV ディスラプション：「トヨタ」は生き残れるか

立命館大学 OIC 総合研究機構プロジェクト研究員 三藤 利雄氏 氏

15:20～16:20 「シャープ再建 鴻海流 スピード経営と日本流リーダーシップ」

立命館アジア太平洋大学 名誉教授 中田行彦 氏

16:20～17:00 総合討論

開催日：令和元年 7 月 21 日（日）14:00～17:00

会場：立命館大学茨木キャンパス（JR 茨木駅東口徒歩 5～10 分）AC348 教室

参加費： 無料 （交流会はありません）

参加申込： [第 12 回研究会] と明記の上、お名前、所属、及び研究会参加の有無を

下記の E-mail でお知らせ下さい。（締め切り）7 月 16 日（火）

（申込先）：研究・イノベーション学会関西支部

副支部長兼支部事務局の長 西原一嘉、E-mail:nisihara@osakac.ac.jp